

「今年注目の(注意すべき)金融商品」



(1) 2011年の注目すべき金融商品のテーマは

①個人向け国債の大量償還が発生する

②ゆうちょ銀行の定額貯金の大量満期の到来する

個人向け国債のうち、固定金利の5年債が発売されたのが2006年1月である。

そこで、2011年には、その最初の償還を今年1月に迎えるのを皮切りに、以降ほぼ3カ月ごとに(1年に4回発行のため)償還がくる。その額は、2011年分だけで約4兆円にもなる見込みである。

その後、2012年にも約4兆円、2013年からは、2003年に発売になった変動金利10年債の償還や、2010年に発売になった固定3年債や償還も始まり、2013年には3・4兆円の償還があると予想されている。

一方、ゆうちょ銀行の定額貯金については、すでに大量満期が始まっており、2010年4月から2012年3月までの2年間で約20兆円の満期金が発生すると見込まれている。

(2) 2011年は金利水準に注目しよう

ポートフォリオ理論には「株と債券の値動きが逆になる」という大前提がある。

つまり、アセットアロケーションを金利水準にしたがって見直す必要があることを意味している。金利動向をにらんで自分のポートフォリオを見直す、2011年はそんな転機の年となりそうである。金利が上がると株は上がると一般的にいわれる。また、債券と株は異なる値動きをするともいわれる。

① 国際分散投資を継続する上で、金利と債券の関係を再度確認

金利上昇＝債券安

債券の価値を決めるのは金利である。債券の金利は原則的には固定金利である。金利の高い債券は高く売れる。その理由は当然利回りが良いからである。

金利が上昇する局面では、後から発売される債券の方の利率が上昇していく。投資家たちは、前の債券よりも新しい債券を購入しようとする(新しい債券＝利率が高い＝よりもうかるからである)。

②債券には新発債と既発債の２種類がある

金利が上がると、新しい債券が売れる。実は既発債の流通は、マーケットの大きな部分を占めている。

金利が低いときに新発債で買った債券を投資家が売るためには、新発債を上回る魅力が必要である。期日に返される資金は決まっており（額面金額で償還）、利率も固定金利であるから、販売価格を時価で調整することになる。利率の低い債券でも投資家は安く購入すれば、投資金額が縮小するわけであるから、利回りは上昇して、新発債に対する競争力が生まれる。

よって、金利上昇の局面では、既発債が安くならざるをえないのである。

③世界の金利水準は、現在どうなっているのか。

2011 年は金利の反転期であると予想される。

（ご参考 2011 年の現在の世界の金利水準）

アメリカ	0.25%
欧州中央銀行	1%
日本銀行	0.1%
スイス国立銀行	0.25%
カナダ銀行	1%
オーストラリア準備銀行	4.75%
イングランド銀行	0.5%

既にオーストラリア、中国で金利の反転が始まっている。アメリカやヨーロッパでも金利を上げ始める動きが出るのが 2011 年だと思われる。つまり、債券価格が下がり始めるわけであるから、**債券より株式を持っていた方が有利になる。**

2008 年のリーマンショック以来の株安で債券にウエイトを移していた投資家にとっては、アセットアロケーションを見直すべきタイミングがようやく訪れることになる。株式優位だったリーマンショック前の 2002～2007 年、そして債券優位となった 2008～2010 年、次の転換点が 2011、2012 にやってくると予想される。

(3) 金利上昇は円安の引き金

「金利高＝債券安」の考え方はシンプルであるが、日本人の投資家にとっては複雑である。それは為替レートの変動が逆の影響をポートフォリオに与えるからである。

欧米で金利が上がれば、ドルやユーロも買われるであろう。結果として、ドルやユーロが対日本円で上昇する。

(4) 人の行く裏に道あり花の山（株式相場の格言）

たとえば、近年の米国株である。リーマンショック以降、アメリカの株式や株式投信は、投資家から放置されていた。しかし、そこは**底力のあるアメリカ企業**である。あれから2年が経てみれば、香港やドイツの株式市場と同じようなリターンを築いているのである。

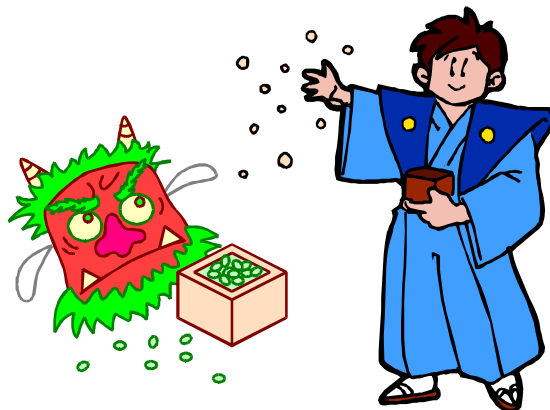
他に現在でいえば、日本の小型株もよく似ていると思われる。

小型株のインデックスであるジャスダック指数は、リーマンショック以降から安値が放置されてきたが、2010年11月ころより売買高が増え続け、リターンも回復してきている。

小型株市場は、市場参加者の投資意欲が高まると、一気に魅力的な資産になる可能性がある。なぜなら、もともと株価が割安に放置されてきたこと、個別企業の成長の余地が大きいこと、政策による支援効果も大きいことなどの理由がある。

さらにおすすめの戦略は、小型株市場全体を買うこと、つまり、小型株を投資対象とする投資信託を買うことである。

もちろん、優良銘柄にくらべて安全性や財務健全性に劣るので、小型株はリスクが大きいことは当然である。



<著者プロフィール>

乾 晴彦（いぬい はるひこ）

<略歴>

CFP、1級FP技能士、DCアドバイザー、宅地建物取引主任者、証券外務員一種資格、貸金業務取扱主任者、管理業務主任者

昭和31年生まれ。

都市銀行、損害保険会社の本社課長・部店長としてコンサルティング業務（PB室）等を担当。

その後、三菱証券（現 三菱UFJモルガン・スタンレー証券）の人材開発部で、FPの推進及びFP実務等の社内講師を務め、生命保険の教育責任者も担当。現在は富裕層向け相談業務、企業（主に大手金融機関と大手不動産会社）や大学でFP教育の講師をしています。

◇今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局【㈱日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。

TEL 03-3340-4488